

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年11月 2日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0175800200		
法人名	有限会社 福音の家		
事業所名	グループホーム 福音の家		
所在地	北海道空知郡南幌町元町4丁目3番14 電話 011-378-1078		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成19年10月30日	評価確定日	平成19年11月27日

【情報提供票より】 (19年10月13日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 9月 1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11人	常勤9人, 非常勤2人, 常勤換算9, 2人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造モルタル造り		
	2階建ての	1~2階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

### (4) 利用者の概要 (10月30日現在)

利用者人数	8名	男性 4名	女性 4名
要介護1	1名	要介護2	0
要介護3	2名	要介護4	2名
要介護5	2名	要支援2	1名
年齢	平均 74歳	最低 45歳	最高 97歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人みどりの医院、町立長沼病院、野幌歯科、町立南幌病院他
---------	--------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

キリスト教会の牧師であるホーム長、管理者の妻及びケアマネジャーの3人は、固い絆のもとケアサービスの質の向上への追求が日々行なわれています。ほかでは受け入れ難い介護度の高い認知症高齢者も快く受け入れて、平穏な生活が営まれています。利用者の中に若い方もおりますが、高齢者の方々と良く馴染み、ホームの雰囲気をととも明るくしています。地域にあって孤立感も覗えた前回の訪問時より数段進歩が見られ、地域の住民の理解と温かい交流が増えるなど、ホーム長を始めとする職員の努力が実を結びつつあります

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価で改善課題であった「ヒヤリハット」と「事故報告書」の区分と整備について、若干の取り組みが見られるものの完全ではありません。書式の整備を含め早急な改善を望みます。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価及び外部評価への理解は、職員間でも感じられますが、自己評価の作成では全職員が個々で自己評価を行なうなど、自らを見つめなおす機会となるよう期待します。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議の開催では、地域住民の方々からの活発な発言があるなど、会議の厚みを感じられます。これからは、ホームの情報提供にとどまらず、自己評価、外部評価の結果を報告し、取り組みへのモニター役を担ってもらうなど、地域に密着したサービスの向上を期待します。また、災害への対応に関して地域協力の要請など幅広い討議とそれら成果に期待します。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>利用者の家族などの半数が町外、また遠方に居住しているなど、家族の意見や要望の収集には困難な面が多々あり、ホーム長は自ら遠隔地へ向いて家族と面談し、利用者の状況を知らせるなどの努力をしています。これらは大きな労力を必要としますが、継続されホーム運営に反映されるよう期待します。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>前回の外部評価時では、地域にあってホームの孤立感も覗えましたが、ホーム長始め全職員の努力により地域の理解が得られて、地元の人々との交流が増える傾向にあります。これからも利用者一人ひとりが地域とつながりながら暮らし続けられるよう地域との連携、交流に取り組まれるよう期待します。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	キリスト教の愛と奉仕を基礎とした、利用者への人権、尊重、安心、穏やかな生活を理念として掲げて、質の高いサービス提供を行なっていますが、地域にあってその人らしく暮らし続けるサービスの文言の欠如があります。	○	これまで培ってきた理念に、地域での安心した暮らしを支える柔軟な支援を加えて、より質の高い理念の創出を期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティングで全職員が理念への実践を確認し合い、常に共有し取り組んでいます。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	前回の評価時には事業所の孤立感も覗えましたが、ホーム長（運営者）を始めとする職員の努力により、地域の理解が得られて地元の人々との交流が数段増加の傾向にあります。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価による具体的な改善への取り組みは、ホーム長を始め全ての職員が理解の姿勢が見られますが、実践的には不足感を覚えます。また、自己評価の作成過程では全職員の加担には至っていません。	○	前回の改善すべき事項を再度の検討を期待するとともに、自己評価の作成には職員全てが自らを見つめ直す機会ととらえて取り組みを望みます。

南幌町 グループホーム 福音の家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、回を重ねるごとにホームの運営や理解が深まって来つつありますが、会議の内容ではホームの現況、行事予定などの報告に終始しており、地域にあって利用者の安心、安全の暮らしへの支援、また、自己、外部評価に係わる協議には至っておりません。	○	これからはホームの現況報告などに加え、評価への取り組み状況や、地域と連携したホーム運営を議題とした話し合いを行ない、意見などがサービスの向上に活かされるよう期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日頃から、町の担当者とは連携を密にして相談、指導を受けています。また、地域福祉ネットワークの中で町担当者との連携が図られています。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、職員が作る「かわら版」は家族に送られ、利用者の暮らしの表情がよく伝えられています。また、利用者一人ひとりの状況を知らせる便りと金銭に係わる報告も併せて送付して家族の安心と信頼を得ています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族のおよそ半数が町外に居住している。疎遠になっているなど家族の意見を聴くまた意見の反映には支障が生じていますが、ホーム長は地方にまで家族を訪問しながら利用者の状況報告と意見など聞くように努力しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職がないなど利用者との安定した関係が保たれています。新しい職員を迎えた際には、管理者始め先輩の職員が気配りをして馴染めるように配慮しています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム長が講師となって行なわれる内部研修及び関連機関の行なう外部研修には多くの出席が見られなど、研修によるスキルアップの意識は高く、また、復命を兼ねた報告を義務付けているなど、出席できない職員への情報の共有も図られています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域福祉ネットワークなどの参加により、ほかのグループホームの管理者との交流が図られています。これからは職員同士の交流や勉強会も実現されるよう検討が行なわれています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に家族から得る情報をもとに、また、日々のカンファレンスの中から利用者本人が安心して暮らせるよう徐々に馴染みを重ねながらサービスを提供しています。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、支援する側、支援される側という意識を持たず、利用者に対して人生の先輩であるという敬服の念を持ちながら、お互いが協働しながら穏やかな生活ができるよう場面作りや声掛けをしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートには詳細な情報が記載されており、利用者の思いや意向の把握に努力されている様子が視えます。管理者は現状に満足することなく、アセスメントの充実を図るよう努力されています。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の状況を知るため、毎朝のミニカンファレンスが行なわれ、利用者本位の介護計画が作られています。また、可能な限り利用者本人にも声掛けをしながら、意向やあるべき姿を考慮しながらチームとして作成できるよう努めています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しの期間を、長期6ヵ月、短期3ヵ月のスパンで行ない、状況の変化によっては都度変更をしながら現状に合った計画が作成されています。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	短期利用共同生活介護に資するための宿泊室が用意されているほか、利用者が知人との交流のための外泊支援も行なわれています。また、ホームの中庭を利用したレクリエーションなど、多機能性を活かした柔軟な支援が行なわれています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の掛り付け医は多岐にわたりますが、その都度受診を支援しています。また、ホームには毎月1度、訪問医師を迎えて健康チェックが行なわれています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族とは利用者の重度化した場合のあり方について早い段階で話し合いを行なうようにしています。現在、方針を記した同意書を家族のもとに送付し回収の段階に入っています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会やミーティングを利用して利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底化を図ってるほか、写真や記録など個人情報の取り扱いには十分な気配りがされています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が考えていること、したいこと、望んでいることを察知しながら、その日、その時の利用者本人の気持ちを尊重しながら、個別の暮らしの支援をしています。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嚥下能力により、刻み食やミキサー食を提供するほか、糖尿病に対応する食事の提供など、職員と一緒に会話を交えながら楽しい食事の支援が行なわれています。食事の用意、後片付けも可能な限り参加しています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎週、月曜日と木曜日を原則として入浴日に設定されていますが、自立入浴が可能な利用者については希望に添った入浴をしてもらっています。利用者は就寝が早いため現在、夜間の入浴はされておりません。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴は多種多様ですが、日々の体調に合わせた楽しみごとや気晴らしの支援、また、自信が持てる役割への支援が行なわれています。例えば近くの水田の実り具合を見に行く、キャッチボール、ホームを花で飾る、料理作りをするなどです。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候の良い日は希望により散歩は欠かさずに行なわれています。また、買物、オムツ処理の車に同乗して作業に当たるなど、作業療法を兼ねた外出支援が行なわれており、ストレス解消にも役立っています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上、夜間の施錠はしますが、昼間は一切施錠をしないケアに取り組んでいます。		

南幌町 グループホーム 福音の家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームでは各居室に車椅子や非難時の毛布などが常備されており、火災や地震などを想定した避難訓練を1週間にわたり連続して行なっています。これまでの日中を想定しての訓練から、今後は夜間を想定した訓練の取り組みが予定されていますが、地域との協力関係では体制作りには不足感を覚えます。	○	ホームでの避難訓練に加え、運営推進会議を利用するなど、地域の人々の協力関係作りを図りながら、緊急に際してより安全確保への取り組みを期待します。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の水分摂取量は日常記録に細やかに記載され適切に支援されているほか、個別の栄養摂取は体調に合わせて調理師が配慮したバランスの良い食事が提供されています。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や各居室に通じる廊下からは、植栽が豊富な中庭を眺められ、四季の移り変わりが肌で感じるなど、居心地の良い空間となっています。また、玄関、居間、台所など家庭そのもので違和感は感じられず安心の空間となっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のベッドは、ホームで用意したものが使用されていますが、ほかには本人や家族と相談して家具、寝具や生活用品などが持ち込まれており、安心した暮らしの空間となっています。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。